資料３

大田区消防団運営委員会の答申案作成に伴う訓練検証

～実効性のある訓練とは～



蒲田消防団

１　はじめに

第１回大田区消防団運営委員会において、諮問事項である「切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について」における課題を「訓練の実効性を高め、災害対応力の強化を図ることが重要である。」とした。

この課題に対する方策を検討するにあたり、「火災対応モデル訓練」を行い、訓練を実施した蒲田消防団員へアンケートを実施するとともに、検討会を行った。

２　災害対応力の強化を図るための実効性のある訓練

「実効性」とは「実際に効果があること」・「現場で再現性があること」から、災害現場での消防団活動を踏まえた実戦的な**「火災対応モデル訓練」**を行い検証した。

⑴　訓練指導者

実戦的な訓練を指導できる消防職員

⑵　訓練実施者（団員）

蒲田消防団の７個分団中、各分団から１又は２名を選出し、計１２名の２班（１班６名）編成

ア　階級、年齢、性別、団歴、資格等、ランダムに選出し訓練を実施することで、火災対応モデル訓練及び検討会における、偏りのない幅広い意見の抽出を図るため。

イ　２班編成とし見取り訓練（訓練を実施していないときは、実施している班の訓練を見て学ぶ訓練）を行い実動負担を軽減するため。

⑶　訓練実施場所

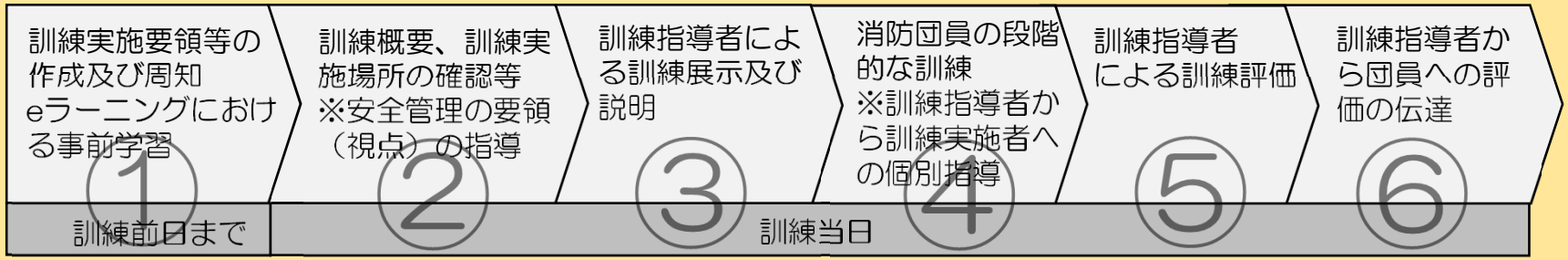
蒲田消防署

⑷　訓練実施要領

消防職員が入庁後に消防学校で行う訓練要領及び消防署での消防活動訓練効果確認をモデルとして火災対応訓練を実施した。

また、本来であれば数日間の訓練期間を設けるが、団員の負担を考慮し、1日で検証を行うこととしたことから、事前に訓練実施要領及び行動概要を訓練実施団員へ示した。

訓練の流れは以下のとおり。



①訓練実施要領等の作成及び事前学習等

訓練スケジュール

訓練検証スケジュール

時間	内容	備考	
9:00～9:30	団員集合	・防災教室に集合（個人資器材は車庫の設定場所に集結） ・検証の概要１日の流れの説明 ・訓練場所の確認 ・体操の実施（指揮者佐渡消防士） ※訓練準備は２部員、３部員で実施し、１部員は交替時点検を行ってください。	
9:30～10:30	訓練展示	職員による訓練展示及び説明を実施・団員の見取り訓練	
10:30～11:00	団員訓練	１班	防火衣は離脱、水はのせずに訓練を実施 防火帽は着装（シールドの設定） ※職員の指導あり ※撤収は職員及び見とりの団員
11:00～11:20		休憩	
11:20～11:50		２班	
12:00～	昼食・休憩	昼食は事務局で準備します。	
13:00～13:30	効果確認	１班	防火衣を着装、水をのせて訓練を実施 職員が団員による訓練効果を評価します。 ※撤収は職員及び見取りの団員
13:30～14:00		２班	
14:00～14:20	休憩		
14:20～15:00	検討会	団員と職員による検討会を実施します。 ・各分団の訓練における課題や問題点 ・本日の訓練における推奨・検討・質疑等 （防災教室）	

訓練概要

訓練概要等

1　訓練内容
(1)　実戦的な火災対応総合訓練（以下「総合訓練」という。）を行います。
(2)　総合訓練について、職員による展示及び説明を行い、団員が２班に分かれ（班及び任務は後日連絡します。）段階的な訓練を実施します。
その後、職員が総合訓練の評価を行い、結果を団員に伝達します。
(3)　(2)の実施結果を踏まえ、検討会を実施し、実効性のある訓練の有効性を検証します。
2　想定
(1)　防火 2/0 住宅（訓練棟）が延焼し、東側隣棟の耐火 3/0 共同住宅へ延焼危険がある想定とします。
(2)　蒲田消防署隊が活動しており、蒲田消防団は現場指揮本部から隣棟への延焼阻止を依頼され、対応します。
3　行動概要
(1)　防火衣等は着装し、分団本部に集合している状態から訓練を開始します。
(2)　機関員と指揮者で出場順路、水利等を確認、その他の団員で、着装状態の相互での確認、車両周囲等の安全確認を行い出場します。
(3)　消火栓に部署し、吸水活動を行い、その後、ホース２線の延長を行います。
(4)　指揮者は現場指揮本部へ向かい、情報を共有し現場分団本部の設定及び筒先配備の依頼を受け、団員へ下命します。
(5)　分団本部員は現場分団本部の設定、指揮板を記載、団員はホースを延長し、隣棟への延焼阻止を行います。
(6)　２線目が延長（１本）された時点で、想定終了とします。
4　平面図

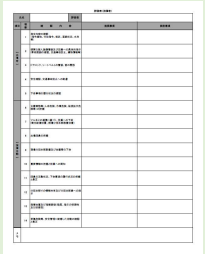


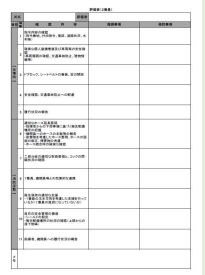
行動概要

行動概要

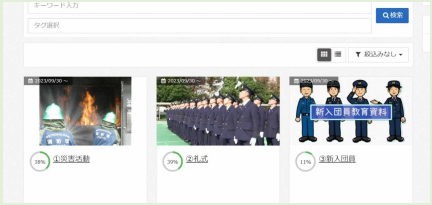
	指揮者	１番員	２番員	３番員	４番員	機関員
主な任務	指揮	二股分岐設定 １線目延長 （ホースバック各活用） 筒先保持	二股分岐設定 １線目延長 ホース整理 筒先保持支援	機関運用支援 ２線目延長	分団本部運営	機関運用
指令～出場	隊員は着装状態の確認、車両及び周囲の安全確認を実施」「機関員は出場順路及び交通危険個所の確認、水利については２個以上選択 交通危険個所等を隊員へ伝達し情報共有	相互に着装状態を確認 車両の確認（資器材等の積載状況、ロックの設定状況等） 車両周囲の確認（車両の前後左右、下部、シャッターの開放状況） 確認後、履行状況を指揮者へ報告				指令番地の確認 出場順路、交通危険個所、水利２個以上（複数）を選択し指揮者へ報告
現着	１、２番員は二股分岐を設定後、火元建物付近まで第１線を延長、３番員は機関運用支援を行い、第２線を延長、４番員は分団現場本部設定。 機関員は吸水指揮 指揮者は現場指揮本部へ向かい、情報共有と依頼事項を受ける。	二股分岐設定 機関員へホース×３本延長を伝達し、 １線目延長 ホースバックを搬送	二又分岐へホース１本を結合し手びろの延長	吸管延長支援等実施 機関員へホース×３本延長を伝達し、２線目延長	指揮根搬送	鉄ぶた開閉、スピンドルドライバー設定等
活動開始	現場指揮本部から火元建物東側へ筒先配備を依頼される。 １、２、番員に火元建物東側へ第１線延長を下命。	２番員が延長したホースに、ホースバックのホースを結合し２本延長 筒先結合し放水	１番員が搬送したホースバックのホースに、延長したホースを結合 ホース整理	二又分岐へホースを結合し、手びろめによりホース延長	指揮板の設定位置を指揮者へ確認後設定し、指揮板を記入 主な記入項目	ホース×３本を２線延長に基づき機関運用
	３番員に火元建物東側へ第２線を下命、４番員へ現場分団本部の設定場所及び設定を下命		筒先確保支援	ホースを１本延長	・住所 ・活動団員 ・活動内容 ・延焼状況 ・街区状況 ・筒先配備等状況	
	指揮者は活動状況を確認	履行状況を指揮者へ報告				
２線目の延長が完了	３番員がホース１本延長後、想定終了					

評価表



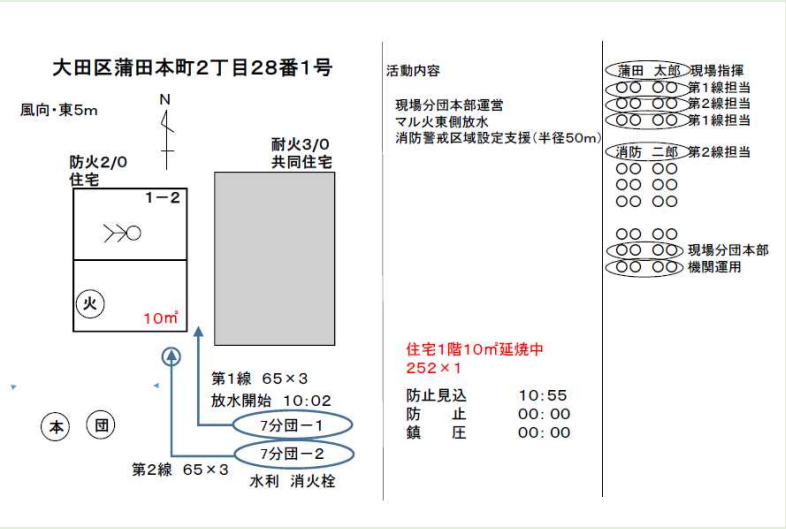


東京消防団eラーニング





指揮板記入要領



②訓練概要の説明、訓練実施場所の確認要領（安全管理上の必要な事前確認等）等の指導

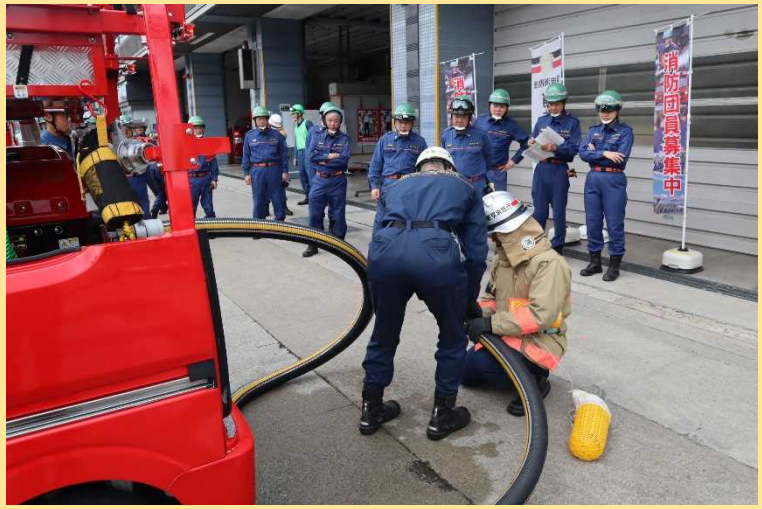
- 訓練概要、スケジュールを事前に説明・・・訓練の円滑な進行、各自の時間で事前学習することによる効率化
- 訓練実施場所の確認（潜在危険の把握、危険要因の排除、安全管理者の配置場所の確認）
- 訓練実施者の体調の確認及び体操





③訓練指導者による訓練展示及び説明

- 訓練フェーズごとに展示及び説明（各行動おけるポイントや理由）を行った。





④消防団員の段階的な訓練

ア　訓練実施団員の構成
　２班に分け訓練を実施

	主な任務	1班（6名）			2班（6名）		
		分団	役職	年齢（団歴）	分団	役職	年齢（団歴）
指揮者	指揮	4	分団長	５９歳（３５年）	5	副分団長	７１歳（３１年）
1番員	二股分岐設定、１線目延長（ホースバックを活用）筒先保持	2	副分団長	６６歳（３９年）	2	班長	５４歳（１０年）
2番員	二股分岐設定、１線目延長ホース整理、筒先保持支援	3	副分団長	５９歳（３０年）	3	部長	６８歳（３４年）
3番員	機関運用支援、２線目延長	7	部長	６３歳（８年）	7	団員	６４歳（１０か月）
４番員	分団本部運営	5	部長	４７歳（１３年）	6	副分団長	３６歳（１７年）
機関員	機関運用	1	部長	５４歳（２６年）	4	副分団長	５８歳（２６年）

イ　訓練スケジュール

時間		１班	２班
午前中	9:30～10:30	職員による訓練展示及び説明を実施・団員の見取り訓練	
	10:30～11:00	実動部分訓練	１班の見取り訓練
	11:00～11:20	休憩	
	11:20～11:50	２班の見取り訓練	実動部分訓練

防火衣は離脱、水はのせずに訓練を実施　熱中症、訓練時間に配意、任務ごとに職員の個別指導を実施





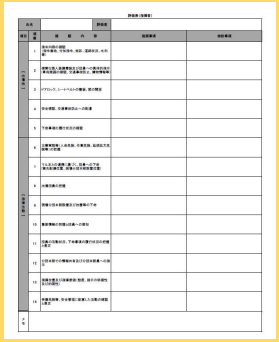


⑤訓練指導者による訓練評価及び⑥訓練指導者による団員への評価の伝達

時間		１班	２班
午後	13:00～13:30	実動総合訓練（効果確認）・推奨検討伝達	１班の見取り訓練
	13:30～14:00	２班の見取り訓練	実動総合訓練（効果確認）・推奨検討伝達

防火衣を着装、水をのせて総合訓練を実施

⑤訓練指導者による訓練評価（番員ごとに訓練指導者が評価表に基づき評価）









⑥訓練指導者から団員への評価の伝達













３　検討会

⑴　訓練後の感想

・とても身になりました。今日の訓練では職員の展示と説明があり、とても分かりやすかったです。消防団員だけでやっていると、一連の活動が合っているのか合っていないのか分からないことがあったので、とても勉強になりました。

・今日の訓練はとてもためになりました。指揮者はやったことがありませんでしたが、評価表、行動概要に項目があったこと、展示及び説明、一回目、二回目と段階的な訓練で、知識技術の向上がありました。
今後、分団でも各番手について指導できる体制ができればよりよくなるのかと思います。

・まだ身についていないので、今後も数回、似たような形で構わないので、訓練をやっていただきたいです。
今日の訓練にすごく感動した部分があったので、ほかの隊員にも是非経験させてあげたいです。

・署員の展示での確認呼称に感銘を受けました。そこには安全確認の意味、隊員同士の情報共有など機能的なものなんだなと感じました。
　今日もとても楽しかったです勉強になりました。

・各分団の混成で隊を編成して訓練を行うことに、新たな気づきがありました。





⑵　各分団の課題（団員意見）

・一つの分団でこの訓練を実施できれば良いのですが、指導できる人材は分団にはいません。
複数回このような訓練を行って記憶を定着させ、指導者を育成していくことがまずは一番大事だと感じました。

・分団では、今日のような訓練は単独ではできません。人数が足りないし、指導者もいません。まずは、本日のように職員の方が付いてやってくれた方が私は良いと思います。

・人数が少なく、指導者もいない。訓練時にも安全管理にまで人数を回せていない場面が多い。団単体では人数も指導者の面からも厳しい。

・資機材については、各分団に揃っていますが、場所、時間、人数のことを考えると分団だけでこれを定期的にやっていくのは無理だと思います。

・分団は指導力のある団員がいないので、実戦的な訓練をやっても、何やっているのか分からない訓練になってしまう。

・ 分団に操法の指導員はかなりいます。実戦的な訓練を指導できる人は少ないので分団でやるのは難しいです。

・今日みたいな実際に現場で使える訓練を月に１回やったほうが現実的だと思います。





⑶　課題に対する解決案（団員意見）

・場所だけが毎年問題になっているので月１回でも消防署の裏庭を貸してもらえたら、全員にそういう訓練ができる。そのためにも署をお借りしたい。

・消防署と消防団が連携して訓練を実施することも非常に実践的だと思います。

・今日のような訓練をする際に１個分団だけでなくて複数分団で実施する。現在１年に一度、事務局のサポートで火災対応訓練を実施していますが、その後、１から２か月後くらいに、同じような訓練を２個分団以上で行う。１つの指揮系統で２個分団が動く形にして、分団同士の連携を高め、対応力を高めていく訓練を行う。
　記憶が残っているうちに訓練をやったほうがより、効果があると思います。

・普及員連絡会定例訓練（年に8回実施）のように、火災等の訓練についても、定期的に消防署に各分団から集まり、訓練・教養を実施するシステムがあると良いと思います。各分団の情報共有及び横の繋がりにもなると思います。
誰が担当になるのかは各分団で決めてもらえればと良いと思います。

・課題は大きく分けて、①人がいない、②指導者がいない　この二つと思います。指導者は、訓練の定例会を行うことで育成できると思います。分団の現状等についても意見交換ができる。定例会では、効率的に訓練の的をしぼって月１回程度行う。定例訓練が月一回あればとても楽しみです。



